

巢などは、骨スキャンと同じ意味で非常に役立つ。

追加： 今枝 孟義（岐阜大 放射線科）

^{169}Yb -citrate によって肝膿瘍が陽性像に描出された

症例を経験しておりますので追加いたします。

回答： 久田 欣一（金沢大学 核医）

われわれは未だ経験はないが、当然考えるべきことで、肝癌と診断するためには慎重に α -fetoprotein の RIA のような他の RI 検査も併用すべきである（RI 複合検査法）

17. Angiography による Cerebral Vascular Disease の診断

○鈴木 豊

（金沢大学 核医学科）

R. T. Go J. H. Christie

（アイオワ大学 放射線科）

脳スキャンが脳疾患を診断する上に欠くことのできない検査であることは言うまでもない。特に、脳腫瘍の診断率は向上し、90% 以上の適中率が諸家によって報告されている。それに比較すると血管性病変の診断は、十分とは言い難い。普通の脳スキャンに、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ による RI アンジオグラフィーを併用すると、新たな情報が得られ血管性病変の診断に有利である。

RI アンジオグラフィーが有効であった各種症例を供覧した。検査時の患者の体位、アイソトープの量、写真的露出時間、データの表示方法について若干の考察を加えた。

脳スキャンで異常を呈さない、T.I.A. のスクリーニングテストとして、本検査法は、手技の簡便さ、その精度から、適当と思われる。今後の課題としては、両側性の病変を如何にして見逃さないようにするかという点と、どうしたら、簡単にディジタルに表示ができるかという点である。

18. 頭蓋内疾患における脳スキャン質的診断適中率

○森 厚文 油野 民雄 瀬戸 光

毛塚 満男 鈴木 豊 久田 欣一

（金沢大学 核医学科）

脳スキャンのみによる質的診断は一般に困難であるといわれているが胸部単純 KP などと同様にスキャンのみからできるだけ情報を得ようと試みることは重要であろう。スキャンから得られる情報として病巣の数、部位、大きさ、濃度、形態、経時的変化などがあるが、これらのうち経時的変化だけを除いてスキャン診断チャートを作成し、学生 3 人に 59 例のスキャンをこのチャートをもとに診断させた。Meningioma は 15 例中、学生 A, B は 12 例、学生 C は 11 例とかなり診断率が良くある特定の疾患ではスキャンのみでも診断可能な場合があると考えられる。しかし全体としては、3 人の平均は 38% と診断率は決して良いとはいえない。その原因是スキャンでは腫瘍、膿瘍、動脈奇型、血腫を鑑別することは困難であるためと考えられ、これらはスキャンでは、Mass 疾患としてしか検出できることになる。従って今度は経時的変化を考慮にいれて再検討を加えてみた。まず梗塞と Mass 疾患をその RI 集積部位から両者を区別し、それが困難な場合は 2~3 週間毎にスキャンをくり返すことにより両者を鑑別する。次に Mass 疾患と判定したならば多発性の場合は転移性腫瘍か膿瘍を考える。単発性の場合は各部位の好発疾患が経験的にわかっているため疾患が限定され、次に濃度、形態、initial scan と delayed scan を行うことにより鑑別を試みた。今後更に症例を重ね改良を加えると共に、他の RI 検査法を併用することにより診断率が向上することが期待される。

追加： 今枝 孟義（岐阜大学 放射線科）

RI Angiography によって Meningioma と A-V Malformation とを鑑別診断した症例を経験しておりますので追加いたします。